

第2回横浜市港北区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会議事録

日 時	令和2年4月16日(木) 午前9時50分から午前11時30分まで					
場 所	港北区役所1号会議室					
出 席 者	飯島委員、岡本委員、原委員、西田委員、宮田委員					
欠 席 者	なし					
開 催 形 態	非公開					
議 題	1 面接審査 2 審査・選定					
決 定 事 項	<p>次の法人を指定候補者として港北区長に報告する。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%; text-align:center;">施設名</th> <th style="width:50%; text-align:center;">指定候補者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align:center;">横浜市港北区福祉保健活動拠点</td> <td style="text-align:center;">社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会</td> </tr> </tbody> </table>		施設名	指定候補者	横浜市港北区福祉保健活動拠点	社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会
施設名	指定候補者					
横浜市港北区福祉保健活動拠点	社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会					
議 事	<p>会議の公開・非公開について、第1回選定委員会で決定したとおり、面接審査及び審査・選定は非公開とすることを確認。</p> <p>1 面接審査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1法人あたり、法人からのプレゼンテーション10分、質疑応答約10分で実施 <p>【法人によるプレゼンテーション】</p> <p>【質疑応答】</p> <p>(委員等) ボランティアの発掘育成の具体的な施策を伺いたい。</p> <p>(法人) 日々の相談の中で必要な活動を把握し、必要な担い手を育成することを大切にしている。具体的には傾聴講座、音声訳などのテーマ型講座や、本市施策のシニアボランティア制度を活用し、セカンドライフを考える目線でのボランティアの入門講座を開催している。また、障害を持つ小学生の通学支援など、活動や対象地域を特定してボランティアを募り、研修を行ったうえで、ボランティア活動を行ってもらうなどの取り組みを行っている。</p> <p>(委員等) 日中平日以外の、夜間・休日の利用率について、その促進策を伺いたい。</p> <p>(法人) 多目的研修室、団体交流室の現在の利用率61%を、今期指定期間中に65%まで上げていきたいと考えている。利用申し込みについて空き情報を提供していくほか、青少年を対象にした週1回の学習支援の事業は積極的に取り入れ、夜間利用の活性化につなげている。</p> <p>(委員等) 地域の居場所サポートモデル事業について期待しているが、その成果、展望などを伺いたい。</p> <p>(法人) 区社協としては、地域の人々をつなぐための拠点づくりを大切に考えており、区拠点と同様の取り組みができる拠点が地区社協にできることにより、地域福祉活動が生まれると考えている。平成28年度から、まずは子供の居場所という切り口で22か所設置し、平成29年度は28か所、平成30年度は、</p>					

子供だけでなく様々な方が集う場所として6か所を新たに立ち上げ実施している。

(委員等) 重要な役割を果たすボランティアコーディネーターの育成について、その視点を伺いたい。

(法人) 平成28年度(今期指定管理)より、それまで、区のボランティア連絡会に委託して行ってきたコーディネート業務を、拠点職員により行うようになった。ボランティア活動者が行っていたコーディネートと同様、地域の一人一人の困りごとにボランティアとして寄り添う視点でコーディネートすることを大切に、その育成に取り組んでいる。

(委員等) 区社協は多くの機能があるが、優先的に取り組むものがあれば伺いたい。

(法人) 今年度、昨年度は、13地区の社会福祉協議会が、地域の困りごとの解決に取り組んでいることをふまえ、重点事業の第1位に掲げている。

また、担い手不足の解消については、今年度、ボランティアグループ、特別養護老人ホーム、老人保健施設などで在宅福祉の活動をしている方々による在宅福祉分科会で検討し、「家事・生活支援ボランティアグループたちあげガイド」を作成した。ボランティアの集め方やコーディネート(つながる)手法、財源確保の方法など、地域活動者の視点で、ボランティアグループの立ち上げガイド本となっている。このガイド本を利用して負担感なく、活動が進むよう考えている。

(委員等) 福祉保健活動拠点の適切な運営に際し、一番大きな課題と想っているところ、それに対する対策を伺いたい。

(法人) 港北区の特色は、20代30代若い世代の入れ替わりが多く単身世帯が多い。地域の福祉を進めていく中で、身近な近隣同士の関係が希薄になっている。区域全体での人と人とのつながりを育んでいく中で、拠点が一か所であることが課題。助成金などを利用し、区民の力を借りて、拠点と同様な形の居場所づくり、つながる拠点を展開することが、拠点を中心としたネットワークの広まり、区内の福祉の高まりにつながるものと考えている。

2 審査・選定

事務局より財務状況評価及び資格審査結果について報告。

【審査結果】

施設名	申請団体名	得点
横浜市港北区福祉保健活動拠点	社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会	789点/1,100点

審査の結果、最低制限基準の総合計点の6割を満たしているため、申請法人を指定候補者に選定することを委員全員一致で決定。

【講評】

申請書類、プレゼンテーションは総花的な説明となっていて、今後の取組についての説明が薄い印象を受けた。質問に対する回答により具体的に分かるようになった。

セカンドライフ講座などシニアのボランティア活動の活性化に取り組んでいることは評価できる。今後は講座等の開催を超えて、一人一人を結び付けていく、ボランティアコーディネーターの役割に期待したい。また貸館利用率については法人側からも明確な数値目標があり、取組に期待したい。

	<p>時代の要請で社会福祉協議会が今後大変重要な役割を担うことになる。地区社会福祉協議会など地域のボランティアや NPO など様々な主体と連携して、担い手不足に取り組んで欲しい。公平性に留意せざる得ない機関であることは分かるが、社会情勢の変化にも対応しながら、課題認識を持って、優先順位をつけて取り組んで欲しい。</p>
--	--